



農福連携 はじめませんか？

今、農業現場で障がい者、高齢者が活躍しています。

農福連携（作業委託）とは

人手不足に悩む「農業サイド」と農作業を行いたい「福祉サイド」が連携し、お互いの課題解決を図る取組みとして広がりを見せています。障がい者や高齢者に、作業量に応じた賃金設定で農作業を依頼（作業委託）することができます。

「短時間だけど…」
「少人数でいいんだけど…」
「付きっきりで指導は
できないけど…」
人手がほしい

JAが障がい者・高齢者への
作業委託を支援します！

農業現場で
働きたい！

マッチング！

農 業

JA

地域人材

導入事例
はこちら

はじめています！ 農福連携（作業委託）



動画で解説

農福連携を始めて10年 作付面積を維持・拡大

委託内容

取材協力：前島農園（JA ぶじ伊豆）、福祉事業所 にじのかけ橋、みんなのわが家

- ケールの袋詰め、レタスの苗の定植作業、除草、ハウス内の片づけ等

きっかけ

- 人手不足で悩んでいた時に福祉事業所の理事長さんとの出会い、少しずつやってみようということで始めました。農業はいろいろな作業があるので、その中で人の手で行う作業などお願いできる仕事があると思い、相談しながら取り組みました。

取り組んで良かったこと

- 農福連携に取り組んだことで、今の作付面積の維持・拡大を図ることができました。施設作業でも露地作業でも、活躍できるポイントはあると思うのでそれを見つけることが大事ですね。今後も規模を拡大することを考えていますので、この取り組みを継続していきたいですね。

取り組む際の連携先

- 農福連携に取り組む中で、JA、行政、福祉事業所、農業者の4者が話し合う機会をJA主導で作ってくれていることは、課題解決を行う上で大変助かっています。また産地を盛り上げるために、いろいろな情報をJAと共有しながら、農福連携に取り組んでいます。



福祉事業所 指導員の声

外の作業に取り組むことで利用者さん（障がい者）が非常にいきいきと作業ができていると感じます。農家さんとの関係を深める中で、できる作業は増えていき、今後も農業で活躍の場を増やしていきたいです。



農福連携が家族経営の強い味方に！

委託内容

取材協力：伊豆のいちご家（JA ぶじ伊豆）、福祉事業所 サニープレイスカンなみ

- いちごの苗ポットへの土入れ・葉かき等

きっかけ

- 家族で農業を営んできましたが、両親が高齢になるにつれて、少し人手が必要となりました。恒常的というよりも、1日1,2時間、週2日程度のスポット的に人手が必要だと感じていたところ、農福連携を知りお願いすることにしました。

取り組む際の準備等

- トイレの設置など、受入準備に不安がありましたが、福祉事業所に相談したところ自宅のトイレ等でも構わないとのことだったので安心しました。
- 作業については福祉事業所の指導員の方に事前に相談にのっていただきました。

JAのサポート

- 当初は作業の立ち会いや福祉事業所との橋渡しをしてもらい、非常に助かりました。外部に作業をお願いすることにまだ抵抗がある方もいるかもしれませんが、JAが間に入ってくれることで、作業の打合せ等も問題なく行うことができるので、まずは相談してみることから始めるといいと思います。



福祉事業所 指導員の声

「体を動かし、汗を流して、また明日頑張る」という流れが、精神に障害を持たれている方にも良い作用があると考えています。農福連携に参加できる事業所がさらに増えればよいと思っています。



農福連携 JAの支援

農福連携を始める際は、JA、福祉事業所からの支援はもちろん、行政からの助成金等、さまざまな支援を受けることができます。

お問い合わせ